

知事定例記者会見

日時 令和8年3月24日(火) 14:00~14:18

場所 別館2階 記者会見室

(知事)

それでは私の方から、今日3点でございますが、その前にですね、1点御礼を申し上げます。

3月11日に県内で発生をいたしました豚熱につきまして、関係機関の皆様のご理解とご協力のもと、迅速かつ徹底した防疫措置を進めてまいりました。その結果、3月19日をもって、全ての防疫措置が完了をいたしました。

今回の防疫措置にあたりましては、県の職員はもとより、多くの関係団体の皆様に、多大なるご尽力をいただきました。昼夜を問わず、過酷な現場で作業にあたってくださった全ての関係者の皆様に、心より感謝を申し上げます。

また、豚熱は豚やイノシシの病気でございますが、人に感染することはありません。感染した豚肉が市場に流通することもなく、県内で販売されている豚肉は、これまでどおりですね、安心してお召し上がりいただきたいと思っております。

これにつきましては以上でございます。

続いて発表項目でございますが、1点目はですね、中東情勢に関する事業者相談窓口の設置についてでございます。

中東情勢の悪化に伴う、ガソリン価格の高騰や、供給不足への対応に不安を感じている事業者が多いと思っております。県が商工団体や金融機関、医療機関等へ聞き取りを実施したところ、幅広い産業から懸念の声が聞かれ、今後、事態が長期化することにより、さらに懸念が高まることが想定されます。そこで県では、本日、中東情勢により影響を受ける県内中小企業や農林水産業者の経営や資金繰り等に関する相談に対応するため、「国際経済情勢に係る事業者相談窓口」を設置をいたします。引き続き、事態の推移を注視し、県内事業者への聞き取りなどを通じて、本県経済への影響を把握し、必要に応じて、対策を講じてまいります。また、国に対し、状況を踏まえた適切な対策を講じるよう求めてまいります。

1点目は以上でございます。

2点目はベビーカーシェアリング事業オープニングセレモニーについてでございます。

県と静岡市は、民間企業と連携をし、「子育てに優しいまちづくり」の一環として、ベビーカーシェアリング事業を3月27日に開始をいたします。これは、子育て中

の方などが、ベビーカーを持参しなくても、静岡市の街中でシェアベビーカーを利用することができ、手軽に便利に、お子さんと一緒に買い物や街歩きなどを楽しんでいただくための取組でございます。シェアベビーカーは、JR静岡駅とペガサートの地下1階に設置をされます。

利用者は、スマホのアプリでベビーカーポートの鍵を開け、ベビーカーを利用をしていただきます。返却も支払いもスマホのアプリで行います。借りた場所とは別のポートへの返却もできます。利用料金は1時間220円からで、利用時間に応じて料金がお得となる仕組みとなっております。

サービス開始に伴い、3月27日にオープニングセレモニーを実施いたします。セレモニーには、私のほか、難波静岡市長と、今回の事業に連携して取り組むJR東海の大脇常務、ペガサートの金原社長、ベビードアの中川社長にご出席をいただきます。この取組をモデルケースとし、誰もが安心して子どもを育てることができる、子育てに優しいまちづくりに地域とともに連携して取り組んでまいります。

3点目はファルマバレーセンター新規入居企業決定の公表についてでございます。ファルマバレープロジェクトは、平成14年の静岡がんセンター開院を機にスタートをし、これまで第1次から第4次までの計画に基づき、20年以上にわたり、医療健康産業の集積と振興を進めてまいりました。来年度からは、更なる飛躍を目指し、第5次戦略計画をスタートさせます。

第5次戦略計画では、ファルマバレーセンターを拠点としたスタートアップと地域企業との共創や、若年層人材の参画、山梨県との連携強化などに取り組み、世界に通ずる医療健康産業クラスターへの挑戦や、医療田園都市構想の具現化に取り組んでまいります。

中核機関であるファルマバレーセンターでは、地域企業の医療健康産業への参入や、製品化・事業化を支援し多くの成果を上げております。また、センター内には、リーディングパートナーゾーンに、人工肺装置を生産する「テルモ」や、地域企業開発生産ゾーンに、人工関節インプラントを生産する「東海部品工業」などが研究開発や生産活動を展開をしております。

このたび研究開発室に新たな入居企業を募集した結果、4社を決定をいたしました。県内を代表する産業機械メーカーの「静岡(せいこう)」や、国内トップシェアの耳鼻咽喉科向け機器メーカーの「永島医科器械」のほか、体外診断薬などを開発する「TL Genomics(ティーエル ジェノミクス)」、遺伝子検査キットの開発などに取り組む「ネオアカデミア」というスタートアップ2社も入居いたします。県内大手企業や、国内トップメーカー、スタートアップの参画で、がん医療などに資する新たな製品開発を加速をしてまいります。

私からの発表は以上でございます。

(幹事社)

幹事社の中日新聞です。よろしくお願いいたします。

ただいまの知事の発表について質問のある社はお願いします。

(記者)

NHKです。よろしくお願いいたします。

中東情勢に関連してお伺いします。浜松市では重油の確保ができないとしてですね、入浴施設が休止になる例が出ておってですね、県内でも影響が出ているかと思うんですけども、この中東情勢が緊迫化している状況が長期化していることでもですね、県内の企業活動の影響だとか県民生活への影響を、これ知事としてどのように受け止めてらっしゃるかということと、今後の必要な対策、国にも求めていくというお話でしたけども、県として独自に何か支援策を講じたり検討されたりするですね、お考えがあるかどうかをお聞かせください。

(知事)

大変この中東情勢がですね、長期化することに対しては憂慮しているところでございます。これは必ず県だけではなくて全国にですね、大きな影響が出てまいりますので、しっかりと我々としても注視をしていかなければいけません。

そのために今日、相談窓口を設置をいたしまして、いろんな影響を受ける企業様からのですね、資金繰りの相談でありますとか、経営に対する相談を受け付けてですね、それに対して的確に対処していきたいというふうに思っております。

国の方でも今、ガソリンの補助を進めていただいて200円を超えるかというところから170円ぐらいに今、落ち着いてるわけですけども、1つはそのガソリン価格がですね、急上昇するのを抑えていただきたいということとかですね、あとは先ほど言ったような、いわゆる供給のですね、円滑化というところですね、しっかりと備蓄をですね、開放するというのも実施をしていただくわけでありましてけれども、そうした供給体制の安定化というものにも努めていただきたいというふうに思っております。

(幹事社)

他に質問のある社はいらっしゃいますか。それでは、幹事社から質問させていただきます。

弊社の後輩2人が、静岡で初の春を迎えて、花粉症のひどい症状に悩んでいて仕事の効率も下がって、私としてもちょっと困っています。その中で、他県よりも明らかにきついつって言って家から出れない日もあったりしたほどです。花粉症の人が

全国と比べてもトップクラスに多いといわれる静岡県ですが、この花粉症の悩みが解消できれば、県民の幸福度は大きく向上して、日本一なんてもうすぐそこという水準になると思います。ウェルビーイングを掲げる県として、花粉症対策はかなり有効で本腰を入れてもいいんじゃないかと思うんですけれども、知事のお考えをお聞かせください。

(知事)

そうですね。国としてもですね、この花粉症対策まとめておりまして、まず、発生源対策とですね、飛散対策、それから発症暴露対策の3つの視点でですね、花粉症対策を進めるということではあります、県でもですね、当然これ、花粉症対策っていうのは、重要な取組だというふうに思ってます、特に発生源対策、ここをですね、やっぱり取り組んでいかなければいけないというふうに思っております、全国に先駆けてですね、生産を始めた、いわゆる花粉の少ない杉の苗木ですね、これを用いたですね、いわゆる植替えですね、森林の植替え、今500ヘクタールほどで行っておりますけれども、来年度からさらにですね、いわゆる花粉が少ないじゃなくてですね、無花粉スギですね、あの花粉が一切出ないスギ、これをですね、苗木の供給体制の整備に取り組んでですね、できるだけ花粉が出ないようにですね、種目にですね、植替えを進めていきたいというふうに思っております。

一方、予防対策はですね、これはもうご存知のとおり、マスクとか眼鏡とかが有効ですし、いわゆる花粉を部屋に持ち込まないということも大事でございますし、まずは、早期にですね、医療機関に、花粉が飛散する前にですね、医療機関にかかるということも有効だと言われてますので、こうしたいわゆる予防対策について、県民の皆様にも周知をするような取組にも力を入れていきたいというふうに思っております。引き続き、この発生源対策と予防対策、ここを重点的にですね、県としては取組を進めていきたいと考えております。

(幹事社)

ありがとうございます。幹事社からちょっと追加で、その発生源対策なんですけれども、植替えを進めていって、このスケジュール感というか、知事として目標として、その発生源対策の完了のスケジュール感なんかあったら。

(知事)

いや、まだそこまでは。完了までがいつかってのは、まだちょっと明確にお示しはできませんけれども、これ無花粉スギにつきましては、無花粉ですので、しっかりですね、これ苗木の作り方も非常に難しいので、一気にこれを広げるってのはなかなか大変ですけども、しっかり植替えをですね、進めていきたいというふうに思い

ます。

(幹事社)

弊社の後輩含めて花粉症に悩んでいる人たちのために早期に実現すること祈ります。この花粉症に関する質問で、他社さん、他にありませんでしょうか。あと、ちょっと悩みを訴えたいという方もいらっしゃる。なさそうですね。

はい、すいません。それでは次の質問に移らせていただきます。

令和7年度も、最後の定例会見となりました。この1年でリニアの水問題が大きく進展したりだとか、あと、財政再建も本格化したり、あと浜松市に整備する、あの、野球場も一定の方向性が示されたと思います。

今年度の行政運営を振り返って、知事ご自身の評価と、見えてきた課題を教えてください。

(知事)

ああ、そうですね。今年はいわゆる「チャレンジ元年」、「財政改革元年」と銘打ちまして、前例にとられないですね、取組を進めようということで進めてまいりました。今、お話しいただきましたように、リニアもですね、おかげさまで一番の課題でありました水問題も、水嶋国交事務次官にも立ち会っていただきまして、JR東海との間でですね、補償確認書を締結することができましたし、先日、いわゆる発生土の課題もですね、全てクリアをしたということで、あと、南アルプスの生態系がいくつか課題が残って、あと8項目ぐらいありますけれども、これをですね、引き続き、スピード感をもって丁寧に進めていきたいと思っておりますし、あと、スタートアップではですね、浜松市長のときに実績を上げたファンドサポート事業でありますとか、あと、ライドシェアの推進でありますとか、あと、多文化共生でありますとか、成長政策、あるいは、県が抱える課題解決に向けてですね、新たな取組を進めることができましたし、大きな課題であります、財政健全化におきましてはですね、まずは、資金手当債に頼らない財政運営を目指すということで、中期財政計画とですね、定員適正化計画、それから、県有施設のあり方に関する基本方針と、2040の基本方針(正しくは、「2040基本指針」といったですね、中長期的にやらなければいけないですね、計画がほぼ出揃いましたので、これを元にですね、しっかりとこれから進めていきたいというふうに思います。

この課題はですね、1年2年で終わるものではありませんので、引き続き、こうした中期計画に基づいて、しっかり取り組んでいきたいというふうに思っております。また、来年度はですね、引き続き、この財政の健全化とですね、未来への投資とですね、予算でも銘打ちました、両利き予算ということですね、先日、議会でもご議決いただきましたので、しっかり財政健全化に努めるとともにですね、国の責任あ

る積極財政とも呼応しながらですね、成長分野に対して、しっかりと投資をしていくということも行っていきたいと思っております。

ただ、足元では今のご質問出ましたですね、中東情勢でありますとか、トランプ関税の影響等もですね、懸念されるところでありますので、しっかりそうしたところを注視しながらですね、引き続き、県政をですね、前に進めていきたいというふうに思います。以上でございます。

(幹事社)

ありがとうございます。ただいまの幹事社質問に対する知事の回答について質問のある社はいらっしゃいますか。

それでは、その他の質問のある社はお願いします。

(記者)

静岡朝日テレビです。よろしくお願いいたします。

2021年に発生しました、熱海の土石流についてお尋ねします。

18日に伊豆山の盛土の撤去を巡って、静岡地裁が行政代執行の費用をおよそ11億3000万円を、不動産管理会社の新幹線ビルディングに負担させる納付命令を取り消す判決を言い渡しました。書面のコメントではいただいているんですけども、改めて、この受け止めと今後の対応について教えてください。

(知事)

そうですね。県のですね、主張が裁判において認められなかったということは、大変残念でございます。

今の裁判の判決書の内容をですね、精査して、次への対応をですね、これから検討していくところでございます。

(記者)

分かりました。今後の対応について考えられる対応内容であったりとか、いつ頃にこういった対応の方針を示されるとか、そういったご予定ありましたら教えてください。

(知事)

はい。これはこれから、しっかりまず、まずは判決書をですね、しっかり精査をしていかなければいけませんので、そうしたものを踏まえて、対応方針が決まれば、また発表させていただきたいと思っております。

(記者)

ありがとうございました。

(記者)

NHKです。

先ほど今年度の振り返りで、リニアについても言及があったんですけども、改めてリニアについてお伺いします。

先週の専門部会で発生土に関する対話が終了してですね、残りは生物多様性に関する、知事もおっしゃった 8 項目になったということで、改めてこれ1つ、節目になったかと思うんですけども、これについてのお受け止めとですね、あと、残りの対話項目スピード感を持ってというご発言もありましたが、いつ頃終わられそうか、その辺の見通しがございましたらお聞かせください。

(知事)

そうですね。なかなかこれはまだ、専門部会の対応がございまして、いつかということは、なかなか申し上げにくいわけですけども、一応 3 分野のですね、2つの大きな分野が終了したということは、よかったかなというふうに思っています。あと生物多様性におきましてはですね、やっぱり、代償措置が、どのような代償措置を、いわゆる提案してくるかということが、大きなポイントになると思いますので、しっかりそれをまた、専門部会の方でですね、協議をしていただきたいと思っております。

(記者)

ありがとうございます。関連してですね、着工の判断の時期についてなんですけども、全ての対話項目が終われば、その判断の環境が整うのか、もしくは、他にも必要な手続があるのかですね、どのような状況になれば、知事として判断を行えるような環境ができるというふうにお考えでしょうか。

(知事)

今、ここでちょっとそのことをですね、申し上げるまだ段階ではないと思いますが、全ての対話項目が終了して、ある程度、地域の皆さんにもですね、JR東海としての説明をしていただければいけないと思いますし、そうした周辺環境も含めて、そういうものが整った時点で、私自身の判断をしたいと思っております。

(記者)

ありがとうございました。

(幹事社)

他に質問のある社はありますか。ないようですので、以上で記者会見を終わります。
ありがとうございました。

(知事)

はい。ありがとうございました。